

“川の日”
キャンペーン

時代はダム撤去へ！ それでもつくるんですか？ ハッ場ダム

2015年1月11日（日曜日） 午後1時半～4時半

前橋市民文化会館 4階 第五会議室

プログラム

第一部 13:30～15:10

*ドキュメンタリー映画『ダムネーション』上映

提供パタゴニア 87分/アメリカ/2014年

休憩（約10分）

第二部 15:20～16:30

*ハッ場ダムを問い直す

●ダム予定地の状況

・・・渡辺洋子（ハッ場あしたの会事務局長）

●ハッ場ダム事業の現状と今後の見通し

・・・嶋津暉之（ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会代表）

質疑

主催 ハッ場あしたの会 ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会

ハッ場ダム予定地の状況

渡辺洋子（ハッ場あしたの会事務局）

ハッ場ダム事業を進める国土交通省関東地方整備局は、昨年 11 月、本体工事の着工時期を今年 1 月と発表しました。1952 年の最初の構想発表から 63 年目にして、ハッ場ダムはようやく本来の目的である本体工事が始まることとなります。しかし、多くの問題を抱えるダム事業は、本体着工の後、これまで先送りにしてきた矛盾が顕在化していくと考えられます。

1. JR 吾妻線の切り替えと川原湯温泉

本体工事の最大の障害となってきたのは、工事予定地を走る JR 吾妻線です。

ダム事業による吾妻線の付け替えは、工事区間のほとんどがトンネルで、川原湯温泉の新駅と駅周辺の線路だけが地上に造られました。全戸水没予定の川原湯地区には、ダムに水没しない場所は僅かしかありません。地形や地質の悪い場所に無理に地上駅を造ったため、付け替え工事は難航しました。

JR 吾妻線が新線に切り替わり、川原湯温泉の新駅が開業したのは、昨年 10 月 1 日です。新駅周辺の整備事業は完成の見通しが立っておらず、大規模な砂防工事や道路工事が今も続いています。新駅開業と同じ日にハッ場大橋（湖面 1 号橋）の開通式が行われ、現地は祝賀ムードに包まれました。

水没予定地の核であった川原湯温泉街は、「現地再建ずり上がり方式」によって、ダム湖予定地周辺に造成中の代替地に移転しつつあります。水没予定地の温泉街では、ホテルゆうあい一軒のみが営業を続けています。

共同湯として観光客に親しまれてきた王湯は、6 月末で閉館となり、7 月には温泉街の背後の山の中腹に切り拓かれた打越代替地の王湯会館がオープンしました。打越代替地では旅館 3 軒、民宿 1 軒が営業を再開していますが、代替地の造成工事は今も延々と続いています。ハッ場大橋近くの新・温泉街のメインストリート沿いには、本体工事を行うゼネコンのプレハブ事務所も新たに建設されました。吾妻渓谷に接する打越代替地の下流側では、ダム本体工事予定地に繋がる道路工事が行われています。

地元がダム計画を受け入れて以降、水没予定地の世帯数は四分の一に減少し、多くの住民がダム事業による現地再建に見切りをつけて地区外に転出していきました。人口減少、温泉の泉質低下のほか、30 メートル以上の高盛り土からなる代替地の安全性も不安視されており、地域の将来が見通せない状況が続いています。

2. 本体準備工事の遅れ

本体工事が行われる吾妻渓谷は、昭和 10 年に国の名勝に指定された景勝地ですが、昨年からは始まった本体工事の準備工事によって凄まじい破壊が進んでいます。

現在、吾妻渓谷で行われている仮締切工事も本体工事の準備工事の一つで、ハッ場ダムの基礎掘削をする場所に吾妻川の水が流れないように、ミニダムを造る工事です。

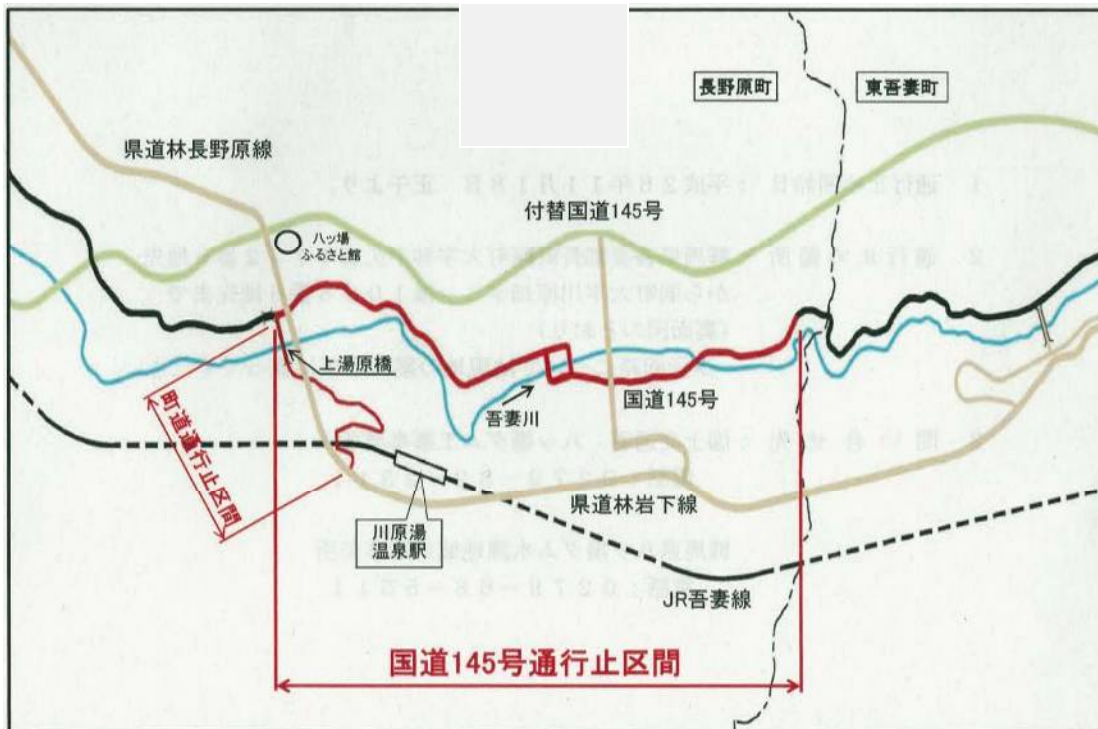
吾妻川の流れは、2009年に完成した仮排水トンネルを流れるように人工的に迂回させられ、吾妻川の河床は干し上げられています。

左岸側の山の上部も、本体工事の作業ヤードをつくる目的で掘削されました。山の麓を走っていたJR吾妻線の線路が外され、山の掘削工事がさらに進みつつあります。

仮締切工事は当初は昨年7月末で完了するはずでしたが、梅雨の増水などによって工事が大幅に遅れています。現在の工期は今年1月16日に延期されており、本体工事着手の遅れも仮締切工事の遅れが影響しています。

3. 国道封鎖と水没予定地

群馬県と国交省ハッ場ダム工事事務所は昨年11月18日、ハッ場ダム予定地の国道145号線を封鎖して通行止めになりました。吾妻川沿いを走る国道は、”日本ロマンチック街道“と呼ばれる観光ルートの一部です。封鎖区間には名勝・吾妻渓谷のほか、昭和9年に国の天然記念物に指定された川原湯岩脈もあり、風光明媚なルートです。



この国道は水没予定地（川原湯、川原畑地区）で暮らす住民にとっては重要な生活道路でしたが、国交省はこの道路をダム本体工事の工事車両の通行に利用するために、拡幅等の工事を行う予定です。

昨年8月、水没予定地住民の有志は国道を管理する群馬県に対して、国道の存続を求める要望書を提出し、「地域住民の生活道路である国道145号線の廃止並びに通行止めは地域住民の足を奪うだけでなく、心情をも踏みにじる行為であり、到底受け入れることは出来ない」と訴えました。しかしダムの早期完成を望む群馬県は、国交省に協力し、11月に廃線手続きをとりました。

現地では12月から雪が積もり始めました。水没予定地から代替地の付け替え国道・

県道へいたる町道や工専用道路は、急坂、急カーブが多く、路面凍結時は交通がきわめて困難です。

今回廃線となったのは、吾妻溪谷のダムサイト予定地と原石山（東吾妻町大柏木）とを結ぶ3.6kmに達する区間です。国道封鎖後も工事関係や行政関係の普通車は通行を許可されていますが、住民には通行証が配布されていません。事前の説明では、緊急時は救急車や消防車が利用できるようにするということでしたが、水没予定地の町道と国道の間には頑丈な柵やガードレールが設置され、緊急時に対応できるか疑問です。住民の中には廃線区間に私有地を所有しているケースもありますが、許可なく自分の土地に行くことも禁じられています。

こうしたダム事業者の仕打ちは、現地では住民を水没予定地から追い出すための嫌がらせと受け取られています。国交省が住民に国道封鎖について説明する際は、代替地の移転先を確認する作業が同時に行われてきました。国交省は昨年9月時点で代替地の購入希望が不明である6世帯に対して、昨年12月末までに回答するようプレッシャーをかけてきました。住民が進んで移転しない場合は、強制収用を視野に入れた事業認定申請の手続きが始まることも示唆しています。

ハッ場ダムの共同事業者である下流都県は、ダムの早期完成とコスト縮減を関東地方整備局に強く求めており、ダム事業者は一刻も早く住民を立ち退かせたいという事情があります。水没予定地から住民が移住するには、国交省と移転契約を行ってから2年の猶予期間があります。さらに、国交省が土地を買収した後、その土地の多くが遺跡に含まれていることから、遺跡の発掘調査を行う必要があります。

現地に残る住民の多くはすでに代替地に移住しており、水没予定地の国道が封鎖されても生活に支障はありません。住民同士が分断され、少なくなった水没予定地住民が孤立する中、国による締めつけという人権侵害が一層激しくなっています。

5. ハッ場ダム本体工事の契約と入札疑惑

ハッ場ダムの本体工事の入札公告は昨年1月8日に行われ、8月6日に清水建設等の共同企業体（JV）が落札しました。

本体工事を受注したJVは、もともとは鹿島建設と清水建設という構成でした。しかし、3月の東京港トンネル工事の死亡事故により、鹿島建設が入札停止処分を受けたため、JVの幹事会社であった鹿島建設が外れ、清水建設を中心としたJV（清水建設・鉄建建設・IHIインフラシステム）が新たに組み直され、受注にいたりました。

ところが昨年7月27日の赤旗は、入札期間の5月2日に入札手続きの重要な節目である「技術対話」に鹿島建設が参加したことをスクープ。鹿島の不正参加は関東地方整備局が主導した官製談合とされています。

予定外の番狂わせから、ハッ場ダムの入札は鹿島建設が表舞台から去りました。けれども、鹿島JVによる514日間の工期短縮という技術提案が評価されて清水JVが受注したことから、ハッ場ダムの本体工事は実際には鹿島が仕切るといわれます。

もともと利根川水系の事業では鹿島建設が強く、栃木県の湯西川ダムでも鹿島・清水JVが実績をあげています。ハッ場ダムの早期完成を目指す関東地方整備局は、当初から本体工事の入札において、「施工日数の短縮の技術提案」を最も重視することを明ら

かにしていました。ダム建設技術で最先端をいく鹿島建設による工期短縮は、最初から織り込み済みでした。

この問題を明らかにするため、ハッ場あしたの会では本体工事契約資料を情報公開請求しました。しかし、入札参加者から提出された技術提案書等について、「公にすることにより、当該法人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがある」、「文書不存在」などの理由で不開示とされました。本体工事の施工計画書も開示が延期されており、ハッ場ダムの本体工事は不透明なままです。

6. 鉄鋼スラグ問題

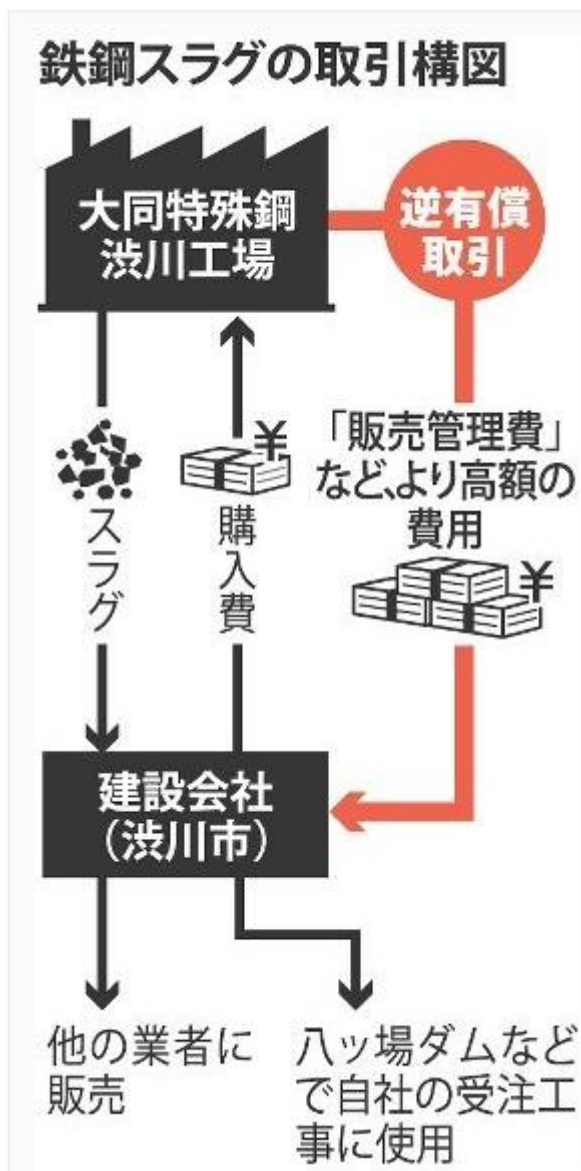
本体工事の開札直前の昨年8月5日、毎日新聞は一面トップ記事でハッ場ダム事業による有害スラグ問題を報じました。大同特殊鋼・渋川工場から排出された鉄鋼スラグの問題は、昨年来、渋川市を中心に群馬県内各地で発覚しており、国交省関東地方整備局は昨年3月に一度目の調査結果を発表しました。しかし、この調査はきわめて表面的なもので、ハッ場ダム事業地域では有害スラグはないので問題ないという結果でした。

8月5日の毎日新聞のスクープは、ハッ場ダム予定地住民の移転代替地に有害スラグが露出していることを伝え、代替地の安全性が確保されていないことを明らかにしました。

問題とされる鉄鋼スラグは、フッ素や六価クロムなどの有害物質を含むだけでなく、水分を含むと膨張する性質があるため、鉄鋼スラグが使われた場所では有害物質が流出する危険性ととも、構造物が変形する可能性があります。

本来、有害スラグは産業廃棄物として処分しなければならないのですが、大同特殊鋼はその処分費用（通常1トン当たり2～3万円）を浮かすため、渋川市の佐藤建設工業に1トン数百円程度を払って引き取らせていました（逆有償取引）。佐藤建設工業はそれを通常の砕石に混ぜて受注工事に使用し、さらに材料業者として各工事の受注会社に納めてきました。この間、佐藤建設工業は大幅なコストダウンによって、工事業、材料業者としてのシェアを拡大してきました。（左図：2014年12月30日 毎日新聞記事より）

毎日新聞の追及により、国交省ハッ場



ダム工事事務所は重い腰を上げて9月に再調査を開始し、調査結果（6～7ページの図表）を12月26日に公表しました。公表資料によれば、ハッ場ダム事業用地内で調査対象とされた19工事のうち、有害物質の含有量が環境基準値を超えたものが8工事ありました。このうちダム用道路の2工事では毒性の強い六価クロムが初めて検出されました。環境基準値を超えるフッ素が検出された2軒の宅地について、関東地方整備局はスラグを撤去する方針を示しています。

しかし、今回の調査も不完全なものです。主な問題点は以下の通りです。

- ・ 調査個所が代替地の一部であること。
- ・ 鉄鋼スラグが表面に露出していない場所は、調査対象から除外されていること。
- ・ 宅地の調査は、住民から要望がないことを理由に、ほとんど行われていないこと。
- ・ 国交省ハッ場ダム工事事務所に住民の要望を聞く姿勢はみられず、問題の矮小化を図る説明に終始していること。
- ・ 有害スラグの分析方法は、有害スラグそのものではなく、一緒に使われた通常の碎石と混合した状態で環境基準値と照らし合わせた結果が公表されていること。
（本来は、有害スラグ単体で分析しなければならない。）

水没予定地住民の移転代替地は、住民が国に土地を提供した対価である補償金で住民が購入します。造成費用がかさんでいる代替地は、周辺地価よりはるかに高額な分譲価格が設定されています。住民が終の棲家として購入した代替地に瑕疵があれば、住民にとっては大きな損失です。本来であれば住民から怒りの声上がる状況ですが、ダム事業に協力する地元の有力者の多くは、スラグ問題がハッ場ダム事業への反発につながることを恐れ、「問題ない」として沈黙しています。

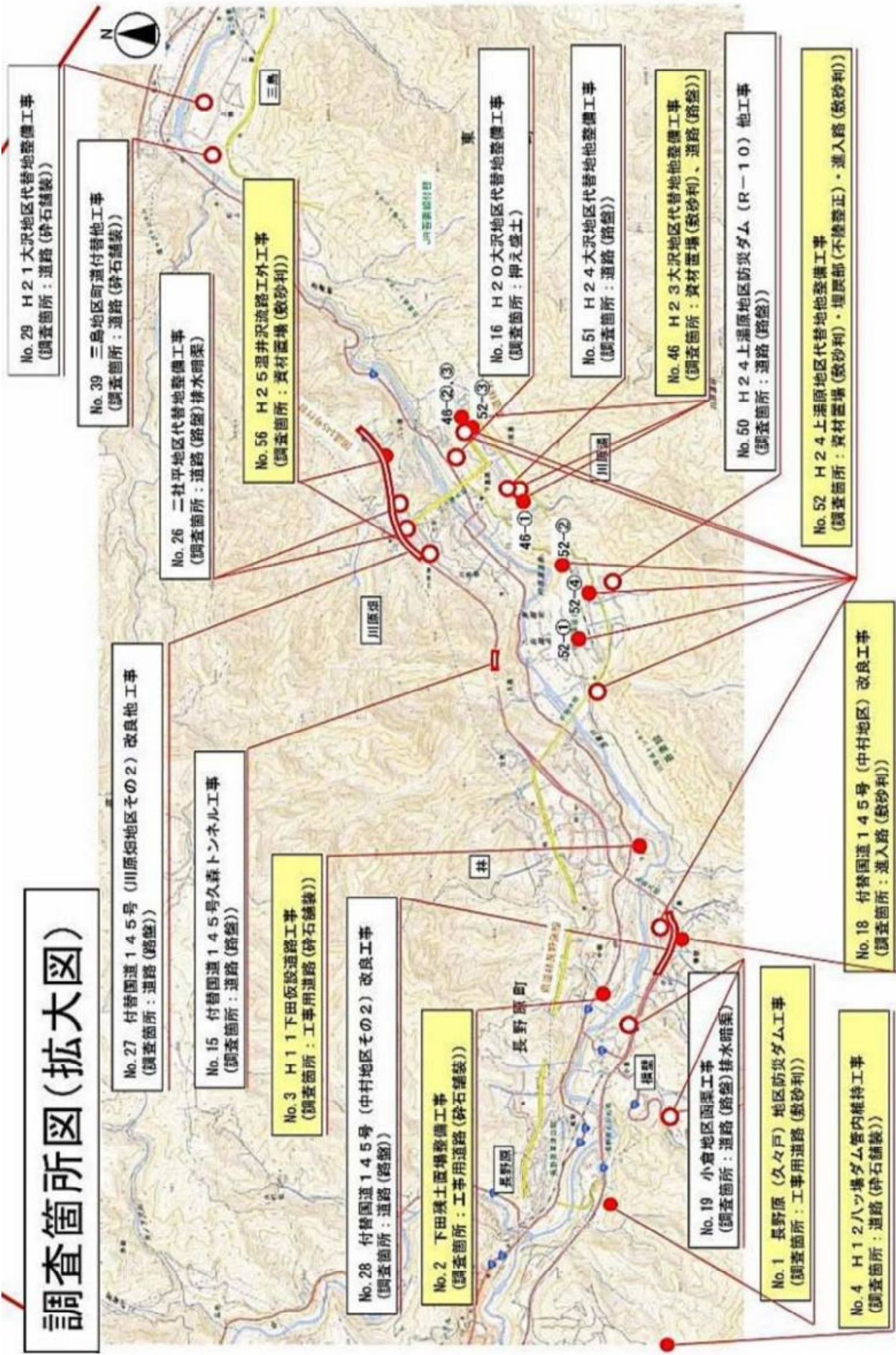
現地では、ハッ場ダム湖に水を貯めた時、ダム湖予定地の安全を確保するために、地すべり対策、代替地の安全対策についてのボーリング調査が続いていますが、いずれも調査結果や具体的な対策は明らかにされていません。

（右写真：

川原湯温泉街で行われている地質調査 2014年12月18日撮影、右脇の郵便局は12月22日に営業終了。）



調査箇所図(拡大図)



- : 有害物質の含有量等が基準に定める基準値を超えた工事の施工箇所
- : 有害物質の含有量等が基準に定める基準値以内の工事の施工箇所

※国土地理院1/25,000から作図

■有害物質の含有量等について、分析試験を実施した工事の施工箇所のうち、基準に定める基準値を超えた工事の施工箇所の分析試験結果

No.	契約年度	事務所	工事名	枝番	試料採取箇所	流出量(mg/L)										含有量(mg/kg)					
						カドミウム	鉛	六価クロム	ひ素	水銀	セレン	ふっ素	ほう素	カドミウム	鉛	六価クロム	ひ素	水銀	セレン	ふっ素	ほう素
1	H10	ハッ場ダム工事事務所	長野原(久々戸)地区防犯ダム工事		工事用道路(敷砂利)	<0.001	<0.001	0.061	<0.001	<0.0005	0.002	5.1	0.05	<5	<5	1	<5	<0.05	<5	11,000	<100
2	H10	ハッ場ダム工事事務所	下田残土置場整備工事		工事用道路(砕石舗装)	<0.001	<0.001	0.22	<0.001	<0.0005	0.003	5.3	0.04	<5	<5	3	<5	<0.05	<5	15,000	<100
3	H11	ハッ場ダム工事事務所	H11下田仮設道路工事		工事用道路(砕石舗装)	<0.001	<0.001	0.005	<0.001	<0.0005	0.006	3.7	0.05	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	12,000	<100
4	H12	ハッ場ダム工事事務所	H12ハッ場ダム管内維持工事		道路(砕石舗装)	<0.001	<0.001	0.047	<0.001	<0.0005	0.002	5.5	0.05	<5	<5	1	<5	<0.05	<5	14,000	<100
18	H20	ハッ場ダム工事事務所	付替国道145号(中村地区)改良工事		進入路(敷砂利)	<0.001	<0.001	<0.005	0.001	<0.0005	<0.001	1.2	0.02	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	3,000	<100
46	H23	ハッ場ダム工事事務所	H23大沢地区代替地他整備工事	46-①	資材置場(敷砂利)	<0.001	<0.001	<0.005	0.001	<0.0005	<0.001	1.5	<0.02	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	1,100	<100
				46-②	道路(路盤)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	0.86	0.03	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	3,100	<100
				46-③	道路(路盤)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	0.84	0.04	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	4,900	<100
52	H24	ハッ場ダム工事事務所	H24上湯原地区代替地他整備工事	52-①	資材置場(敷砂利)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	1.6	0.03	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	2,700	<100
				52-②	資材置場(敷砂利)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	1.3	0.02	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	2,200	<100
				52-③	埋戻部(不陸整正)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	1.3	<0.02	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	2,500	<100
				52-④	進入路(敷砂利)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005	<0.001	1.4	<0.02	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	1,200	<100
56	H25	ハッ場ダム工事事務所	H25瀬井沢流路工外工事		資材置場(敷砂利)	<0.001	<0.001	<0.005	0.001	<0.0005	<0.001	0.93	<0.02	<5	<5	<1	<5	<0.05	<5	790	<100

※ JIS A 5015 環境安全品質基準

嶋津暉之

1 ハッ場ダム本体工事の予定（実際は？）

私たちが反対し続けているハッ場ダムの本体工事が始まろうとしている。

国交省関東地方整備局が昨年11月20日にマスコミに説明した工程は次のとおりである。

ハッ場ダム本体建設の工程と工事期間

工程	工事期間
基礎掘削	2015年1月～2016年5月
コンクリート打設	2016年6月～2018年5月
水門設備の据え付け	2018年9月まで
試験湛水	2018年9月以降 → 2019年度中に完成予定

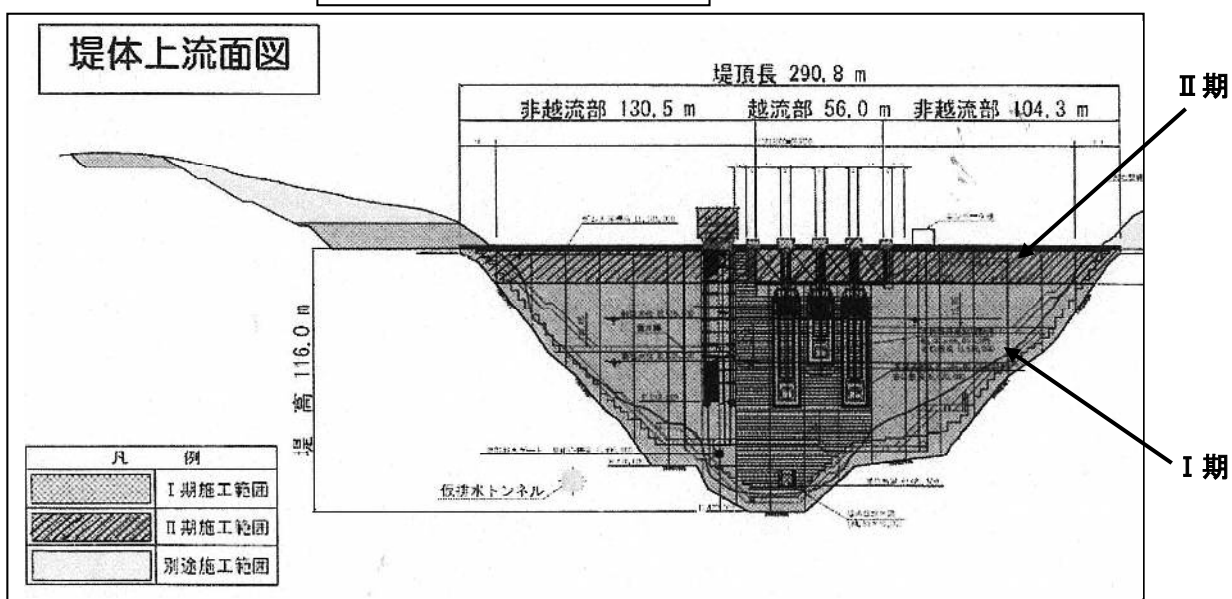
しかし、この工程は昨年9月の地元説明とは明らかに異なり、1年程度早まっている。地元説明では下図のとおり、ハッ場ダム本体工事をⅠ期とⅡ期に分け、Ⅰ期は2018年度までで全体の9割、Ⅱ期は2019年度となっている。これは、国が後年度の費用負担を約束する国庫債務負担行為の上限が5年とされているため、6年間に及ぶハッ場ダム本体工事をⅠ期とⅡ期に分けなければならないことによるものである。そのため、Ⅰ期工事は入札で行い、Ⅱ期工事はⅠ期工事の落札業者と随意契約を結んで実施することになっている。

昨年1月8日の本体工事入札公告にも「後工事についても、本工事にて合意した単価等を使用するものとする」と記されており、Ⅱ期工事があることが示されている。

11月20日のマスコミ説明ではこのⅡ期工事については何も触れておらず、ハッ場ダムが早くできることを印象付けるためのものではないかという疑念がある。

Ⅰ期の本体工事入札では、清水建設JVは514日（17か月）の工期短縮を条件に落札したことになっているが、本体工事はすでに当初の予定より10か月遅れていると報道されており、落札時の工期短縮の条件が実際に意味を持つのか不明のままである。

2014年9月の地元説明資料



2 今後のハッ場ダム事業の障壁

ハッ場ダム本体工事が今年1月から始まることになっているが、ハッ場ダム事業には完成までにまだまだいくつかの障壁がある。

(1) ダムサイト予定地の地質問題

ダムサイト予定地はこれまでの地質調査で熱水変質帯、断層、低角度割れ目が分布していることが判明している。国交省は地質ボーリングの結果からの推測で本体工事を進める上で支障はないとしているが、今年1月からの基礎掘削により、変質帯、断層、低角度割れ目が推測より大きく広がっていることが明らかになる可能性もあり、その場合は本体工事そのものを基本から見直すことが必要になる。

(2) ダム本体完成後の試験湛水による地すべりの危険性

ダム貯水池予定地周辺は熱水変質帯、応桑岩屑流堆積物、崖錐堆積物などの脆弱な地層が広く分布しているので、ダム本体完成後の試験湛水、その後の本格的な湛水で、貯水位を上下させると、地すべりが誘発される危険性が十分にある。その場合は地すべり対策工事に追われ、大滝ダム（奈良県）や滝沢ダム（埼玉県）のように、完成が9年間、5年間も延びることも予想される。

このように、地質の面でハッ場ダム事業は前門の虎（ダムサイト）、後門の狼（貯水域周辺）を抱えている。

(3) ダム事業費の大幅増額は必至

2011年度のハッ場ダムの検証でも事業費の増額が必要であることが示されている。

ハッ場ダムの検証（国交省）

総事業費の点検結果

事業費の増額分－減額分	33.6 億円
追加的な地すべり対策の点検による増額	109.7 億円
代替地の安全対策の点検による増額	39.5 億円
合計	183 億円

実際には更なる増額要因がある。

i 代替地の整備費用の大半の負担：80 億円程度

ハッ場ダムは地形条件の悪い中で代替地を無理してつくっているため、整備費用がきわめて高額になっており、分譲収益ではとても賄いきれず、その大半、80 億円程度が事業費に上乗せされる可能性が高い。

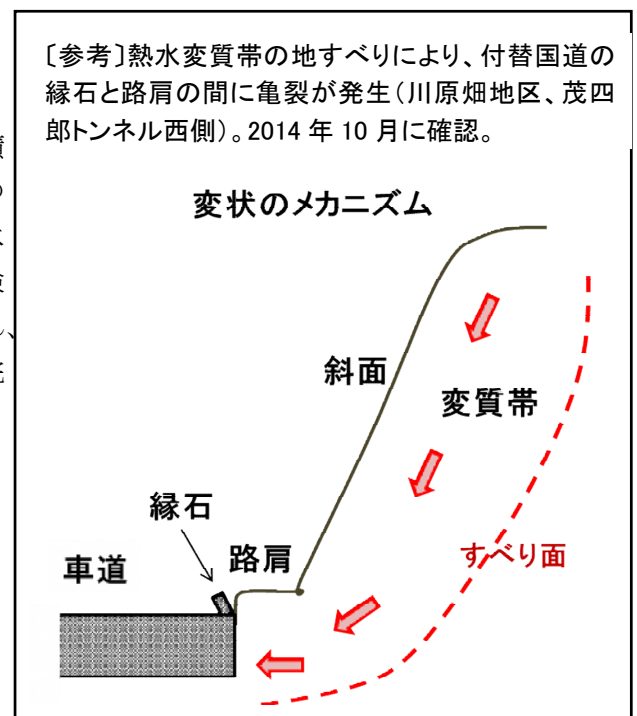
ii 東電への減電補償：130～200 億円以上

ハッ場ダムにより、東京電力の水力発電所の発電量が減少する。その発電減少量を現状に合わせて計算すると、減電補償額が130～200 億円以上の金額になる。

iii 地すべり対策費の追加：100 億円以上

試験湛水中に地すべりが起きれば、大滝ダムのように地すべり対策費が膨張して、ダ

[参考]熱水変質帯の地すべりにより、付替国道の縁石と路肩の間に亀裂が発生（川原畑地区、茂四郎トンネル西側）。2014年10月に確認。



ム検証時の試算結果約 150 億円からさらに 100 億円以上増えることも予想される。(大滝ダムの追加地すべり対策費は 308 億円)

関係都県は事業費再増額に対して拒絶反応を示してきた。事業費の大幅増額を関係都県は受け入れることができるのだろうか？

3 ハッ場ダムがもたらすもの

(1) 本体関連工事および本体工事の進行とともに失われていく自然

- 吾妻川の仮締切工事でカヤックの川下りが過去のものへ
- 名勝・吾妻溪谷の散策が困難に
- かつて若山牧水が讃えた素晴らしい自然林の喪失
- ダム本体が完成に近づけば、水没予定地の樹木も伐採

(2) ハッ場ダム完成後の諸問題

- 吾妻溪谷の変貌
 - ・ 溪谷の上流部 1/4 は壊され、湖底に
 - ・ 残された溪谷も岩肌の美しさを喪失
- ハッ場ダムの行く末
 - ・ 富栄養化による水質の悪化
 - ・ 品木ダムが中和生成物と流入土砂で満杯になればどうなるのか？
 - ・ 堆砂の進行が計画よりずっと早く、約 50 年間でハッ場ダムの夏期の利水機能が半減
 - ・ 貯水位の上下による地すべりの危険性

4 ハッ場ダムの不要性はますます顕著に

利根川流域 6 都県全体の水道用水は 1992 年度以降、ほぼ減少の一途を辿り、2012 年度までの 20 年間に約 200 万 m³/日も減少した (図 1)。一日最大給水量の減少傾向は節水型機器の普及等により、一人当たりの水量が減ってきたことによるものである (図 2)。

2013 年 3 月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した推計では、2020 年以降は利根川流域全体の人口も減少傾向となり、その後はかなりのスピードで減っていくので (図 3)、過去 20 年間続いてきた一日最大給水量の減少傾向は、人口の減少によって拍車がかかり、図 4 の矢印のように推移していくことは確実である。ハッ場ダムの不要性がますます顕著になっていく。ところが、国交省は同図に示す第五次利根川荒川フルプランの架空予測でハッ場ダムの必要性を無理矢理つくり出している。

[注] ハッ場ダムの開発水量は通年換算、取水量ベースで約 143 万 m³/日

5 ハッ場ダムにN o !を言い続けよう

ハッ場ダムはかけがえのない自然を喪失させ、深刻な地すべりの危険性をつくり出すなど、多くの災いをもたらすダムである。

一方で、ハッ場ダムは上述のとおり、水需要が減少し続ける今後の時代において利水上の必要性がなく、さらに、利根川の治水対策としても無意味なダムである。

ハッ場ダムはつくってはならないダムであり、本体工事が進もうとも、私たちはハッ場ダムに対してN o !を言い続けなければならない。

図1

利根川流域6都県の水道用水の推移

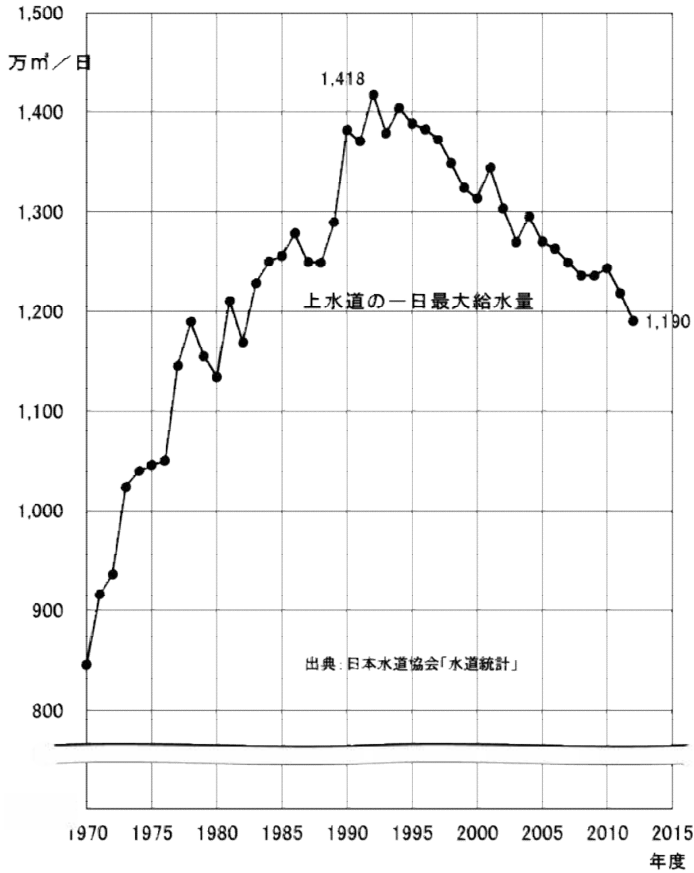


図2

利根川流域6都県の一人あたり水道用水の推移

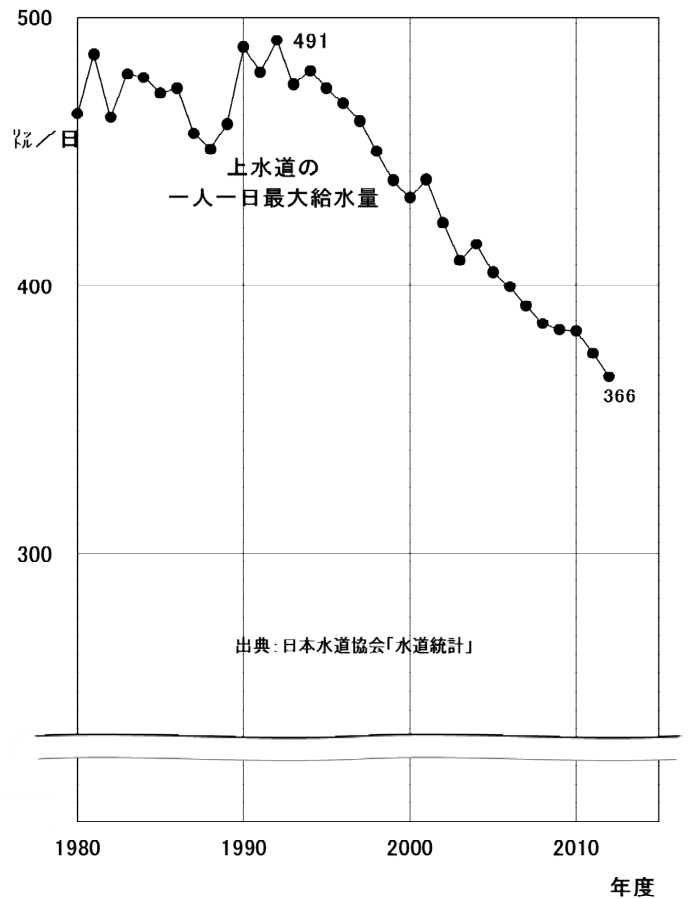


図3

利根川流域6都県の人口の実績と推計

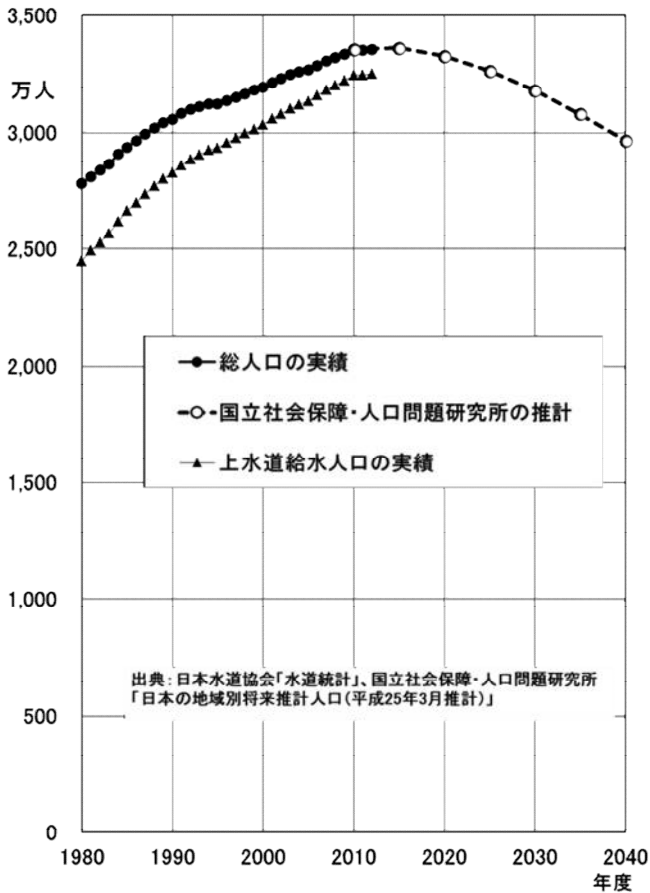
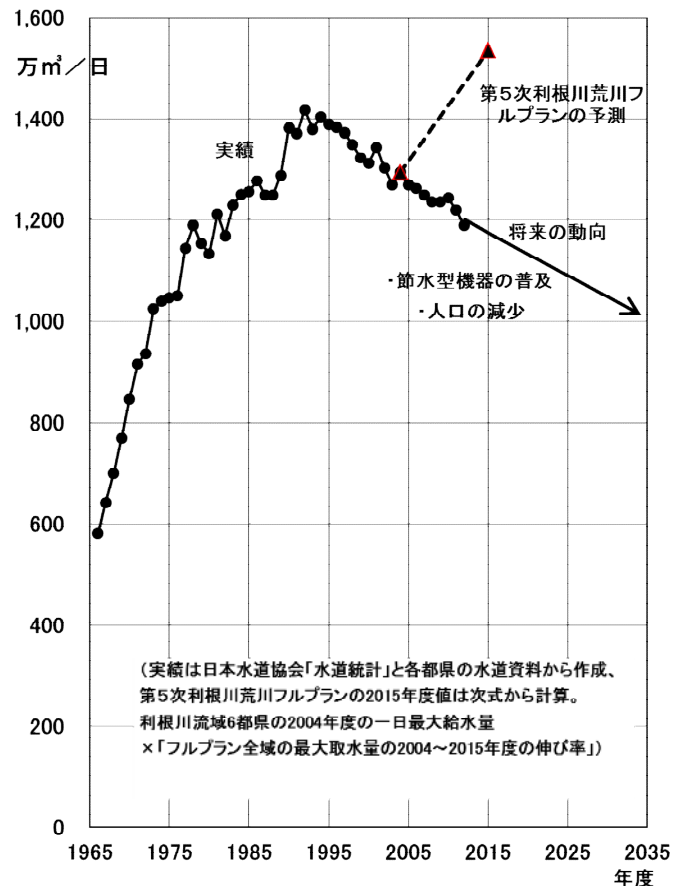


図4

利根川流域6都県の上水道の一日最大給水量実績と将来の動向



『ダムネーション』公式ホームページより

映画『ダムネーション』の劇場公開に合わせて来日したマット・シュテッカー(企画プロデューサー、水中撮影監督)のインタビュー(2014年11月21日)。

Q. なぜ映画を制作しようと思ったのですか？

この映画を作ったのは美しい川と自然の美しさを知ってほしいということと、ダムがいかにかの環境に悪影響を及ぼすかというダムの破壊性について知って欲しかったからです。そしてダムを撤去することでどのように生態系が蘇るかを伝えたいと思ったのです。

映画にした理由は、世界中にメッセージを伝える手段として有効な手段だと知っていたからです。映画以上にストーリーを伝えるメディアはなかったと思いますし、人々の熱意もこもっているし、見た人が感動して、行動したくなるのも映画ならではの強みです。本だったらこれほどの影響力はなかったと思います。



Q. パタゴニア創業者のイヴォン・シュイナードと一緒に企画したそうですが、どちらが言い出したのでしょうか？

2011年頭に映画祭にイヴォンと行った際、ダム撤去をテーマにした映画を作ろうということに、ビールを飲みながらどちらからともなく同時に流れで決まったんです。

Q. 制作期間はどれくらいだったのでしょうか。

映画を作ろうと思い立ったのが2011年1月。半年かけてダム撤去のストーリーを集めたり、プロジェクトの登場人物のことを調査し、その後、監督となるトラヴィス・ラメルとベン・ナイトと2年間アメリカ中を回りました。最後の半年は編集。2013年終わりに完成させました。初上映が2014年3月のサウス・バイ・サウスウエストです。

Q. どれほどの人やダムを取材対象にしたのでしょうか？

50人以上にインタビューしました。ダムは20基ほどを調査するのが目標でしたが、8基を取材対象としました。

Q. 一番大変だったことは？

ダム所有者の多くが、ダムの中で撮影する許可をくれなかったことです。それが一番大変でした。無許可での撮影も行ないました。政治家にインタビューを申し出ても、断れ続けました。ダム賛成の人の意見を取り入れたかったのですが。

Q. 『ダムネーション』を観たアメリカの観客や社会の反応は？

観客からはいい反応をもらっています。数々の環境問題があつて、解決策がないと思いがちですが、ダム撤去という一つのアクションを起こすとすぐに自然が回復されると知り、皆希望を感じてくれます。老若男女みんなからいい反応がありました。

Q. アメリカ以外ではどんな反響がありましたか？

最近フィンランドで上映されたのですが、そこに来ていた俳優の働きかけで、15分間議会でスピーチする機会を得たんですが、その2日後にダム撤去の決定がされたんです。日本でも理解さえしてくれたら、経済的、文化的、環境的にもダム撤去の選択が現実的だと変化が起こると思います。

Q. 日本人に、どうこの映画を観てもらいたいですか？

一般の人、一人の人間でも変化をつくれるんだという力を感じてほしいです。アメリカでもダム撤去は20年前にはクレイジーと言われていたのが変わりました。日本も荒瀬ダム(熊本県)の撤去が起きたように、変えられると信じてほしいんです。心をこめてムーブメントを起こせば、政治家も無視できなくなると知ってほしい。そしてダムの水力発電は決してクリーンな発電方法ではないという事実も知ってほしいと思います。

Q.ダム撤去はどんな好影響があるのでしょうか？

ダム撤去の素晴らしいことは、ダム撤去後にサーモンが戻ってくるだけでなく、伝統的な生活、文化が蘇ることです。一度も釣りをしたことがなかったネイティブ・アメリカンの若者が、祖父から釣りの仕方を習いながら伝統的な釣りをやり始めたりしています。

Q.ダムが果たしている役割もあると思いますが？

ダムがもたらす恩恵はたくさんありましたが、今となっては時代遅れの技術です。アメリカでは現在何万基ものダムが事実上役に立っていません。壊しても悪影響はないのです。アメリカで多くのダムが作られた時代、太陽光発電は存在しませんでした。エネルギー効率の優れた風力発電など、ダム以外の発電方法や川の水を地下に貯水する方法もなかったのです。今は脱ダムに至るトランジションの時代なのです。そして気候変動にも影響を与えるというメタンガスを大量発生させていることも最近の科学的調査で分かってきました。ダムが正当化されることは不可能だと思います。私たちは先に進むことが不可欠なのです。ダムが撤去されることで地域の住民は川とのつながりを取り戻し、川がもたらす恩恵を享受できるようになるでしょう。すべてのダムを今すぐ撤去しろなんて言うつもりはありません。ただ不要なダムは撤去して、他の方法を考えるべきなのです。

Q. 日本では荒瀬ダムが撤去されただけです。もっと促進させるためにはどうすればいいでしょうか？

日本の荒瀬ダムの撤去が始まったことは今後の広がりが期待できることです。そして実際に水質が良くなり魚が戻ってくることを見たら、中毒になるはずです。もっとダムを壊して同じことを見たいと他の地域も真似するはずです。アメリカではこれまでに1000基以上のダム、年に50基のダムが撤去されています。日本も同じ流れになればと。

Q. この映画を作って一番良かったことは何ですか？

カルフォルニアで上映した後に、7歳の男の子がハイタッチをしてきたんです。そして「僕は将来ダムバスターになってダムを爆破したい！」と言われた時が一番嬉しかったですね(笑)。

「日本で唯一の例。ダムを撤去したら川も海も再生した」

アメーバニュース 2014年12月16日

提供：日刊SPA！ <http://yukan-news.ameba.jp/20141216-159/>

計画から40~50年経つのにまだ完成していない“亡霊”のようなダム建設計画。眠っていたそれらの計画が「アベノミクス」の名のもとに復活、急激に推し進められている!!

そんななか、日本でただ1基だけ、撤去中のダムがある。熊本県の荒瀬ダムだ。

「県の企業局の方に現地案内をお願いすると、本当にニコニコして対応してくれます。資料も喜んで出してくれるんですよ」と語るのは、荒瀬ダムの撤去を長年訴え続けてきたつる詳子・元八代市議。撤去作業の責任者たちがホームページで顔写真とともに意気込みを語っているのは、公共事業としては異例だ。地域住民に受け入れられていることがよくわかる。（右写真：荒瀬ダム撤去
2015年1月5日、撮影者：溝口隼平）



「撤去作業はまだ途中ですが、川の水はだいぶきれいになりました。土砂も流れ、川の流れや生態系にとって重要な河原も復活しつつあります」（同）

撤去作業の効果は海にいち早く現れた。長年ダムに溜まっていた土砂が海に流れ、干潟の再生が始まっている。その影響で、貝類の漁獲量が上昇。長らく姿を見なかったウナギまで獲れるようになった。

ただ、まだ課題のほうが多い。「上流の瀬戸石ダムや河口近くの堰を撤去して、やっと元の清流が戻ってきます」（同）。

政治的タイミングもよかった。民主党政権が誕生した翌年に、水利権の更新時期が重なったのだ。国交省は'09年、“更新ではなく（同意取り付けがより難しい）新たな水利権獲得が必要”とし、県は事実上サジを投げた。

世界では、既存のダムを撤去する動きが進んでいる。アメリカでは、年に50基のダムが撤去されている。ワシントン・ポストによると、例えば'11年に始まったエルワ川ダム撤去事業は760種の仕事を生み、撤去後にはレクリエーション、旅行業など446種類の通年の仕事が生み出されるとされている。

ダムは新規建設より撤去こそ、新たな公共事業として有望なのではないか。

役立たずのダムを取り壊せ

すべては川の自由のために。常識を覆した挑戦者たちのドキュメンタリー。



Patagonia presents

DAMNATION

ダムネーション



提供: パタゴニア 制作: シュテッカー・エコロジカル&フルタイムメディア 制作責任者: イヴォン・シュイナード
プロデューサー: マット・シュテッカー&トラヴィス・ラメル 監督: ペン・ナイト&トラヴィス・ラメル 編集: ペン・ナイト 配給: エヌアイズ・ピープル

DAMNATIONFILM.NET

patagonia



UNITED PEOPLE